

NakaNishi ESD通信



地域の歴史 平和を見つめ を考える

今年度は、1学年を中心に「高社郷満蒙開拓団」を題材に、地域の歴史を知り、平和を考えていく学習を進めています。

7月のコラボ授業では、明治以降の**日本の近代化**を長野県の蚕糸業が支えていた実態に気づき、**中野地域も蚕糸業**を中心に今の町の原型が形作られたことを学びました。その授業の中では、世界恐慌の影響を受け、養蚕に依存した農家経営が破綻し、困窮した農村において、広い土地を求めた農家と、政府の領土的野心とが結びついた当時の日本は、国民を欺き、国策としての満州開拓移民に結びついていったこともお話ししました。

中野市からも高社郷約 720 名が満州に渡っています。中野市では、その犠牲者を偲び、戦禍を繰り返さないためにも、東山にある高社郷満州開拓団慰霊碑において、毎年8月25日（団員が集団自決した日）に遺族の慰霊法要が行われており、この歴史を後世に伝えたいという想いのもと、高校生を招いての慰霊法要が継続されています。本年度も**1・2学年の生徒32名が慰霊法要に参加**しました。

【今年度の活動】

7月 …

コラボ授業「なぜ満州に渡ったか
～高社郷満蒙開拓団のあゆみ～」

8月25日 …

高社郷開拓団慰霊法要

10月頃 …

元団員・滝澤博義さんの講演会
(1学年・予定)

敗戦直後に旧満州（中国東北部）で起きた集団自決で500人以上が犠牲になった高社郷開拓団の慰霊法要（実行委員会主催）が25日、中野市東山公園の慰霊塔前であった。式典では、参列者全員が旧

中野下高井から旧満州へ 集団自決の開拓団 故郷で慰霊



滝沢さん(右)の慰霊の言葉を聴く
中野西高校の生徒たち(奥)

開拓団参加者の体験を聞くなど、戦争について学んでいる中野西高校（中野市）の生徒30人も出席。慰霊塔に焼香し、手を合わせた。昭和20年8月25日に集団自決が起きた。

満州の方角を向き、唱歌「故郷」を歌い、黙とうした。木島平村出身で元団員の滝澤博義さん(85)は「長野市には「慰霊の言葉」を述べ、「真実を後世に伝えるために多くの人が協力してくれている。安心してお眠りください」と犠牲者らに呼び掛けた。同校1年、大窪連さん(16)は「犠牲者の命を無駄にしないためにも、美しい故郷で安心して暮らせるように、人と人とのつながりを大切にしていきたい」と生徒を代表してあいさつした。実行委などによると、高社郷開拓団には中野下高井から700人以上が参加。ソ連参戦で逃避行が始まり、敗戦を知らされることなく1945

信濃毎日新聞 8月26日(月) 朝刊掲載

■ 高校生代表 大窪 連君のこぼれ(抜粋)

長野県では37859人という数の人が満州国へと移り、ほとんどの人が犠牲となりました。長野県は、全国で1番犠牲者が多い県です。このことは、国が国民をだまし満州国へ移住させたことが一番の原因だと思います。当時は国民に「情報を正しく判断する力」を養うための教育がなされず、国にとって都合な情報は隠されていました。満州から引き揚げる際も、国から正しい情報が伝えられていれば犠牲者の数も少なくなっていたと思います。亡くなられた方々の死を無駄にしないためにも、私たちが正しい歴史を学び、起こってしまったことを正しく理解して、戦争が二度と起こらないようにするにはどうすべきかを考え、次の世代にも繋いでいきます。また、この美しい故郷で人々が安心して暮らしていけるよう、豊かな自然を守り、町をきれいにし、人と人との繋がりを大切にしていきたいと思っています。

ESDとは？

Education for Sustainable Development/持続可能な開発のための教育

ESDは地球規模の課題を自分のこととして捉え、身近なところから取り組む(think globally, act locally)ことにより、課題の解決につながる新たな価値観や行動を生み出すこと、そしてそれによって持続可能な社会を創造していくことを目指す学習や活動です。